

防除情報

長崎県病害虫防除所長

令和6年度病害虫発生予察 防除情報第13号

普通期水稻 穂吸汁性カメムシ類の防除対策について

普通期水稻における穂吸汁性カメムシ類の発生が多く、気象予報によると今後も気温が高く本虫の発生に適していることから、下記の点に留意して防除指導をお願いします。

記

1. 発生状況等

- (1) 9月前期（9月12日時点）の巡回調査（60筆）では、捕虫網による20回すくいとりあたり虫数は2.2頭（過去5カ年平均 0.3頭）、発生圃場率は35.0%（同 16.0%）で、過去5カ年平均より多い（表）。種別ではイネカメムシ及びクモヘリカメムシが主体であり、斑点米産出能力の高い大型カメムシ類の発生が多い。
- (2) 長崎県では、今年離島部を含む県内全域でイネカメムシの発生を確認している。
- (3) 気象予報（福岡管区气象台、令和6年9月12日発表）によると、向こう1か月の気温は平年よりかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

表 穂吸汁性カメムシ類のすくいとり調査における発生状況（令和6年9月12日時点）

種別	虫数/20回すくいとり							発生圃場率	
	R1	R2	R3	R4	R5	平均	R6	平均	R6
ホリハリカメムシ	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	2.9	5.0
クモヘリカメムシ	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.4	5.5	13.3
シラホシカメムシ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	3.0	6.7
アスジカスミカメ	0.4	0.1	0.2	0.1	0.0	0.2	0.2	6.0	3.3
ミナミアオカメムシ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.7	6.7
イネカメムシ	-	-	-	-	-	-	1.2	-	21.7
計	0.6	0.2	0.3	0.4	0.2	0.3	2.2	16.0	35.0

注) 平均はR1～5の平均値。

注) -はデータなし。イネカメムシの調査はR6年から開始のため、過去や平均の数値はない。

2. 防除対策

- (1) 防除は穂前期とその7～10日後の2回防除が基本であるが、その後も圃場内で生存虫や新たな侵入が認められる場合はさらに追加防除を実施する。
- (2) 水田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布をおこなうと効果が高い。
- (3) 薬剤散布にあたっては、収穫前日数など農薬の使用基準を遵守するとともに周辺環境（ミツバチや水産動植物等）に配慮し、薬剤の飛散に十分注意する。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

